

# 「離島留学制度」改善に向けての報告書

令和5年9月3日  
これからの離島留学検討委員会

## 目 次

「離島留学制度」の改善について	・・・	P 1
1 「離島留学制度」の目的について	・・・	P 1
2 「離島留学制度」の改善の方向性について	・・・	P 2
3 「離島留学制度」改善に向けての具体的提案について	・・・	P 3
4 組織体制の再構築について	・・・	P 6
離島留学生のサポート<イメージ>	・・・	P 8
最後に	・・・	P 9
参 考	・・・	P 10

## 「離島留学制度」の改善について

### 1 「離島留学制度」の目的について

この3年間はコロナ禍において、生徒が地域の中に入り込む機会はずいぶん減っているが、これまで離島留学実施校の中には、地域のボランティアに生徒が参加し、その際に地域の方々による手作りのおにぎりなどをいただくことがあり、地域との交流が生まれるケースもあった。アフターコロナとなった今、改めて、この「離島留学制度」を教育やまちづくりの中でどのように位置づけるか、ということも踏まえ、本委員会では、「離島留学制度」の目的を次のように定義付けた。

#### 【離島留学制度の目的】

しまの特色ある教育課程の中で、自分を磨き、自分らしさを発見することで、希望する進路を実現するとともに、しまの豊かな自然や文化、あたたかさにふれることで、第2のふるさととしての思いを醸成し、生涯にわたり、里親、友人、島民とのぬくもりのある交流を生み出すことを目的とする。

また、かけがえのない青春時代をしまで過ごした生徒が、そのしまのよさや思い出を発信するとともに、例えば、卒業後、二十歳の会へ招待したりすることで、生涯にわたり、ぬくもりのある交流人口の拡大へつながることを期待する。

なお、生徒がしまで上記のような交流を通じて充実した学校生活を送るためには、次のような「求める生徒像」を備えていることが望ましいと考える。

#### 【求める生徒像】

- 学校やしまの特色・環境をしっかりと理解している生徒
- 目的意識が高く、何事にも意欲を持って取り組める生徒
- 協調性や豊かな人間性と人間関係を身に付けたいと願う生徒

## 2 「離島留学制度」の改善の方向性について

～安全・安心で持続可能な制度に向けて～

生徒の受け入れについて、現状としては、県教育委員会が実施した離島留学の実態調査では、入学者の約2割の生徒が中学校時代に50日を超える欠席があり、入学後も生徒の23%が転学もしくは退学している状況である（通常の全日制高校の転学・退学の割合は4～5%程度）。

こうした現状の中で、今回のような事態を二度と起こさないようにするためには、生徒や里親が抱える悩みやSOSを迅速にキャッチするための組織的な対応が求められるほか、日常的な里親訪問や専門家なども交えた相談対応の充実、さらには、里親や教職員に対する研修会の実施などが必要である。

一方、制度本来の目的からすると、上記のように、生徒や里親のサポートを強化するだけでなく、例えば、しまでの3年間、親元を離れて生活できるかどうか、或いは、学校やしまの特色・環境をしっかりと理解しているかどうかなどについて、専門家なども交えたアセスメントを入学前にしっかりと行い、ミスマッチを防ぐことも必要である。このほか、里親の役割の明確化や、福祉施策と同じ里親という名称の変更、保護者が離島留学に対して積極的に関わることも必要であると考えられる。

さらには、生徒を支えるためには、いわゆるタテ（教員・里親）・ヨコ（学校の友人）の関係だけでなく、「ナナメの関係」（その他の大人との関係）も作っていく必要があり、22ページのイメージ図のように、生徒を真ん中に置き、保護者や里親、学校（教員・離島留学支援員）をはじめ、県・市の職員や、社会福祉士、自治会、地域の方々など多くの大人が関わり、地域全体で生徒を見守る環境をつくるのが、離島留学制度をよりよいものにするためには非常に重要な視点である。

また、これらの制度の見直しを進めるにあたっては、教員の負担を軽減するほか、それぞれの関係者ができることを分担することで持続可能な制度にすべきであると考えられる。

### 3 「離島留学制度」改善に向けての具体的提案について

前述の離島留学制度の改善の方向性を具現化するためには、サポート体制の強化や受入体制の見直しなど、制度の充実を図るとともに、地域全体で見守る環境をつくることなど、以下の4つの柱に沿った対策が必要であると考えます。

#### (1) 生徒や里親に対するサポート体制の強化

生徒がSOSを発信した時の組織的な対応や、里親が一人で悩みを抱え込まないような体制の構築 など

#### (2) 生徒の受入体制の見直し

生徒がしまで安心して生活を送れるよう、入学前のアセスメントの実施(状況の把握)や、市の移住施策と組み合わせた親子留学の導入のほか、里親の役割の明確化 など

#### (3) 生徒に対する地域全体での見守り

学校や里親だけでなく、生徒を中心に据え、地域の多くの大人が関わる地域全体での見守り など

#### (4) 教員の負担を軽減する環境づくり

教員の負担軽減を目的とした、寮の管理体制の見直しや離島留学支援員の増員 など

なお、それぞれの柱の対策ごとに、具体的な改善策を以下のとおりまとめた。

#### (1) 生徒や里親に対するサポート体制の強化

##### 生徒がSOSを発信したときの組織的な対応の強化

生徒本人の特性や家庭事情など、様々な事情を抱える生徒に対する対応として、学校や市町、スクールカウンセラー、社会福祉士、民生委員、里親、地域代表などの関係団体による組織的な対応を構築するとともに、危機管理マニュアルを作成する必要がある。また、外部の相談窓口を周知するなど、学校や里親以外の頼れる存在の確保にも努める必要がある。

## 里親が一人で悩みを抱え込まないような体制づくり

里親の悩みなどに迅速に対応するために、専門家なども交えた相談体制の充実や、里親や教職員を対象とした研修会を実施する必要がある。なお、危機管理マニュアルについては里親の対応も含めるものとする。

## 特別支援学校との具体的な連携など、教育支援の充実

生徒の実態に応じた様々な支援を行うために、高校に併設もしくは近隣の特別支援学校分校・分教室との協力体制を築き、相談体制の強化や特別支援学校の教員による職員研修などを実施する必要がある。

## 学校に配置している離島留学支援員の増員と役割の明確化

離島留学支援員は、広報活動や地域連携の窓口業務なども請け負っているが、生徒や里親のSOSをキャッチするためには、離島留学支援員による日常的な生徒支援や里親宅の定期訪問などが欠かせないため増員し、役割を明確化する必要がある。

## (2) 生徒の受入体制の見直し

### それぞれの学校の特色や目的に応じた、入学前のアセスメントの実施（状況の把握）

様々な生徒が入学している実態を踏まえ、入学前に、生徒やその保護者に対し、親元を離れて生活することの大変さや、15ページに示している「求める生徒像」等を丁寧に説明するほか、ホームステイ受入環境の整備として、専門家なども交えた入学前のアセスメントを実施（状況の把握）する必要がある。なお、入学後も、生活状況や満足度などを定期的に確認することも重要である。

### 里親の役割の明確化や名称の変更

里親の役割をどう位置づけるか明確化にするとともに、里親と保護者の役割分担・責任の明文化や、里親や保護者を中心とした連携組織の立ち上げのほか、児童福祉法上の里親と区別するために、名称については「しま親」とするなど変更することが望ましい。

## 市町の移住施策と組み合わせた親子留学など、離島留学制度の拡充

生徒が安全かつ安心して生活を送れるように、従来の子どもだけによる留学に加え、市町が移住施策として提供する住居へ親子で転居する留学の形態についても認める方向で見直しを検討する必要がある。さらには、一家転住による留学も含め、安全・安心な離島留学制度に向けて、未来志向の「しま育」を推進する必要がある。

## 里親住居の改修費用等の支援など、里親制度の支援拡充

生徒に里親宅で快適に生活をしてもらうため、また、新たに里親になる場合、住居や設備の改修費用等の初期費用が課題となっていることもあることから、一定の期間、里親を続けることなどを条件として、住居の設備や改修費用等に対する補助制度の創設を検討する必要がある。

### ( 3 ) 生徒に対する地域全体での見守り

#### 地域社会や大人とのつながりの強化

人間関係が学校や里親など、生徒は狭い範囲の中での生活に限定される傾向があるため、里親や学校だけでなく、地域全体で生徒を見守る環境づくりとして、22 ページのイメージ図のように、生徒を中心に据え、保護者の関わりを大事にしながら、隠れた生徒の SOS にも気付けるよう、普段からの声掛けや関わりなど、里親や学校(教員・離島留学支援員)をはじめ、県・市の職員や、社会福祉士、自治会、地域の方々などによる地域全体で見守る環境づくり、さらには、地域を超えて、生徒同士が交流するような場を設定することが必要である。すでに市によっては、入島式を行ったり、田植えを体験させたり、或いは、希望者についてはボランティアに参加させる取組がみられるが、コロナで中断されていたものも多く、再度、見直すとともに、充実を図っていくことが求められる。

## (4) 教員の負担を軽減する環境づくり

### 教員の負担軽減

アンケートや各市の検討部会から寄せられた要望のうち、特に改善の必要性が高いものとして次の2項目が挙げられる。

- ・教員の負担軽減
- ・寮の管理体制の見直し

アンケートからは、教員のマンパワー不足を指摘する意見が少なくなく、教員の負担軽減をいかに図っていくかということは大切な課題である。そのためにも、2つ目にあげた寮の管理体制の見直しについては、様々な方策について検討する必要がある。現在、対馬高校と五島高校には寮があり、その舎監（宿直）業務が教員の大きな負担となっている実情がある。そのため、寮の管理体制を見直し、外部に委託したり、舎監業務の回数を減らしたりするなどの方策を検討する必要がある。

また、今回の離島留学制度の見直しにより、教員の負担が増加しないように留意すべきであり、そのためにも、離島留学支援員の増員や、或いは、心理面や福祉面のサポートについてはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、社会福祉士と連携し、支援を必要とする生徒の自立や社会参加に向けた取組の支援については特別支援学校の教員と連携するなど、それぞれの関係者が専門的知見を活かしながら連携しあうことも、高校における教員の負担軽減につながるものとする。

## 4 組織体制の再構築について

「3 『離島留学制度』改善に向けての具体的提案について」の実効性を高めるためには、以下のような組織体制を構築する必要がある。

各校の離島留学や制度全体を検証し、サポート体制も含めて改善を図っていくための組織

生徒がSOSを発信したとき、或いは、里親から緊急の相談があった場合に、迅速に対応するチーム



現行の里親同士の情報交換を主とした「里親連絡協議会」に保護者の関与や研修会の実施などを加えた既存組織の体制見直し

本委員会としては、生徒にとって、安全・安心な生活環境を保障するためには、このような組織体制の再構築が必要であると考えます。

また、それぞれの組織を機能させるためにも、関係者が日頃の情報共有に心がけ、必要なサポートが行き届いているか相互にチェックすることも重要であり、そのためにも県や市をはじめ、生徒を取り巻く、教職員、里親、地域住民等の関係者の不断の取組みにより、制度そのものが魅力的で、生涯にわたり、ぬくもりのある交流につながるような制度になることを本委員会としては期待している。

# 離島留学生のサポート＜イメージ＞



## 最後に

離島留学制度は、しまの特色ある教育課程の中で、自分の可能性を発見することで、希望する進路を実現するとともに、しまの豊かな自然や文化、あたたかさに触れることで、第2の故郷としての思いを醸成し、生涯にわたり、里親、友人、島民とのぬくもりのある交流を生み出すことを目的とした制度である。

その中でも、当該生徒が通学していた壱岐高校における離島留学制度では東アジア歴史・中国語コースを設置し、本制度が開始した当初（平成15年度）から実施している。制度発足から20年が経過した現在、特色ある教育活動のもとで学びたいという意欲を持つ生徒が入学する一方、様々な事情を抱えた生徒も入学しているのが実情である。

そうした状況の中、今年の3月に、壱岐高校へ離島留学した当該生徒が行方不明のあと死亡が確認される非常に残念な事案が起こり、こうした前途ある若者の尊い命が失われたことを大変重く受け止め、その背景に何があったのかを検証するとともに、改めて離島留学制度の運営上の課題について、これまでの間、検証・検討を行ってきたところである。

今後は、今回起こった悲しい出来事をこれからも決して忘れず、生徒がしまで安心した生活を送れるように、そして、支援体制についても、学校や里親だけで対応するのではなく、保護者や地域など一体となり生徒を見守る体制を整備し、より魅力的で持続可能な制度に向けた改善が図られることを期待している。

## 参 考

### ○「離島留学に関するアンケート」

<対象高校> 対馬高校、壱岐高校、五島高校、五島南高校、奈留高校

<実施時期> 令和5年4月28日から5月17日までの間

<対象者> 生徒、里親、保護者、教職員

<回答状況>

・離島留学生 回答数 143名 / 対象数 169名(回答率 85%)

・保護者 回答数 117名 / 対象数 169名(回答率 69%)

・里親 回答数 20名 / 対象数 31名(回答率 65%)

・教職員 回答数 161名 / 対象数 198名(回答率 81%)

### ○「離島留学に関するアンケート」(過去10年間に遡ったアンケート)

<対象高校> 壱岐高校

<実施時期> 令和5年5月12日から5月26日までの間

<対象者> 生徒・保護者(H23~R2までの入学者の生徒・保護者)

<回答状況>

・離島留学生 回答数 41名 / 対象数 116名(回答率 35%)

### ○「いきっこ留学月別生活実態調査(4月分)」

<対象学校> 壱岐島内で留学生を受け入れている小中学校

<実施時期> 令和5年4月24日から4月28日までの間

<対象者> 対象児童・生徒

<回答状況>

・里親留学生 回答数 22名 / 対象数 22名(回答率 100%)

・孫戻し留学生 回答数 5名 / 対象数 5名(回答率 100%)

・親子留学生 回答数 18名 / 対象数 18名(回答率 100%)

○ 令和5年3月1日以降の動き

- 3月 1日(水) 夕方以降行方不明  
21:00 警察へ捜索願提出  
21:30 警察・消防・学校職員で捜索
- 3月 3日(金) 8:30 島内放送で目撃状況等と呼びかけ、全校生徒へ周知し、情報提供を求めた
- 3月 5日(日) 16:30 島内放送で実の父親と里親が本人へ呼びかけ、その後も、学校、警察は捜索を続けた  
島内放送は15日までに合計24回実施
- 3月 10日(金)・13日(月)  
全校生徒に対し心のケアを含めたアンケートを実施
- 3月 20日(月) 壱岐市郷ノ浦町原島の磯場に漂着している身元不明の死亡者が発見される
- 3月 21日(火) DNA鑑定の結果、遺体が当該生徒と特定される

○ 県教育委員会の対応

- 3月 2日(木)・16日(木)  
学校配置スクールカウンセラーによる対応
- 3月 7日(火) 高校教育課職員3名を壱岐高校に派遣(～8日)
- 3月 16日(木) 壱岐市に高校教育課及び児童生徒支援課の職員3名を派遣し壱岐市教育委員会と情報共有・連携して対応していくことを確認  
20:00 県教委が里親に事実関係の聞き取りを実施
- 3月 17日(金) 壱岐高校にスクールカウンセラーを緊急派遣  
関係生徒に一部の報道について聞き取りを実施
- 3月 21日(火) 壱岐高校に、児童生徒支援課職員1名、午後からはスクールカウンセラー1名を緊急派遣
- 4月以降 随時、高校・里親・保護者などの関係者への聞き取りを実施

○「これからの離島留学検討委員会」委員名簿

区分	No	機関名	職名	氏名	備考
有識者	1	長崎県立大学	学長補佐	本田 道明	県社会教育委員会委員長
	2	長崎大学 教育学部	副学部長	内野 成美	臨床心理士
	3	山下・川添総合法律事務所	副所長	川添 志	弁護士
	4	地域・教育魅力化プラットフォーム	代表理事	岩本 悠	中教審特別分科会委員 ○1回目(4/20) / 3回目(9/3) 代理出席：尾田洋平 常務理事
市	5	対馬市	市長	比田勝 尚喜	
	6	壱岐市	市長	白川 博一	
	7	五島市	市長	野口 市太郎	○3回目(9/3) 代理出席：久保実 副市長
	8	対馬市教育委員会	教育長	中島 清志	
	9	壱岐市教育委員会	教育長	山口 千樹	○1回目(4/20) 出席：久保田良和 教育長 壱岐市教育長の任期満了により5/20から山口千樹氏が教育長に就任
	10	五島市教育委員会	教育長	村上 富憲	
県	11	長崎県	副知事	浦 真樹	
	12	長崎県教育委員会	教育長	中崎 謙司	
	13	長崎県地域振興部	政策監	渡辺 大祐	

**【対馬市・五島市の検討部会の委員構成】**

県教委、振興局、市、市教委、高校、里親代表、まちづくり団体代表等

**【壱岐市の検討部会の委員構成】**

県教委、振興局、市、市教委、高校、里親代表、まちづくり団体代表、臨床心理士、社会福祉士、民生委員、社会教育委員、人権擁護委員、公募委員、いきっこ留学生受入校代表

## 「これからの離島留学検討委員会」協議経過

期日	会議名	主な協議内容
令和5年 4 / 20 (木) 13:30 ~ 15:00	「これからの離島留学検討委員会」第1回会議	○離島留学制度の内容説明 ○離島留学生の状況説明 ・5校の離島留学生の状況 ・離島留学生の居住状況 ・離島留学制度に係る支援内容 ○壱岐事案の概要
4 / 28 (金) ~ 5 / 17 (水)	離島留学制度に係るアンケート実施	【対象】離島留学生、離島留学生の保護者、里親、教職員 【目的】離島留学制度の運営上の課題について、現行制度を検証し改善に資する
7 / 29 (土) 13:00 ~ 16:00	「これからの離島留学検討委員会」第2回会議	非公開により開催
9 / 3 (日) 13:00 ~ 15:00	「これからの離島留学検討委員会」第3回会議	○壱岐事案についての検証結果の内容確認及び協議 ○「離島留学制度」の改善についての協議

## 「各市離島留学検討部会」の協議経過

期日	会議名	主な協議内容
5 / 24 (水) 14:00 ~ 16:30	「対馬市離島留学検討部会」第1回会議	○アンケート結果報告 ○高校教育課からの検討委員会の内容説明に対する質疑 ○離島留学制度の課題や検討事項
5 / 27 (土) 13:00 ~ 15:00	「壱岐市離島留学・いきっこ留学検討部会」第1回会議	○高校教育課からの検討委員会の内容説明に対する質疑 ○離島留学制度の課題や検討事項
5 / 29 (月) 13:00 ~ 15:30	「五島市離島留学検討部会」第1回会議	○アンケート結果報告 ○高校教育課からの検討委員会の内容説明に対する質疑 ○離島留学制度の課題や検討事項
6 / 7 (水) 13:30 ~ 15:00	「壱岐市離島留学・いきっこ留学検討部会」第2回会議	○アンケート結果報告 ○壱岐事案の背景の検証 ○離島留学制度の課題及び改善策についての協議
6 / 28 (水) 13:00 ~ 15:30	「壱岐市離島留学・いきっこ留学検討部会」第3回会議	○離島留学制度の課題と対策について協議
7 / 10 (月) 13:00 ~ 15:00	「五島市離島留学検討部会」第2回会議	○離島留学制度の課題とその対策にかかる協議 ○検討部会としての意見のとりまとめ
7 / 12 (水) 14:00 ~ 16:00	「対馬市離島留学検討部会」第2回会議	○離島留学制度の課題とその対策にかかる協議 ○検討部会としての意見のとりまとめ

